

わが

今、市民が生き生きと わがまちの未来を語り出す

はじめに

「この下に高田あり」。春には4000本の桜が咲き誇り、日本三大夜桜として知られる高田城跡。江戸時代のある冬、その城下町はあまりの大雪で家並みが見えなくなってしまう、旅人のためにこのような高札が立てられたという話が残っています。繰り返す大雪の中、城下の人々はというと、雪国の知恵である「雁木」などによりたくましく、案外平然と生活してい



ライトアップされる桜と三重櫓「高田城百万人観桜会」

たのかもしれない。市内には今日も総延長約16kmに及ぶ雁木通りが現存し、日常生活の中で利用されています。

また、高田城跡から北西方向およそ6kmに目を向けると、戦国の名将上杉謙信公が居城を構えた標高180mの春日山城跡が、今も私たちの暮らしを見守っています。謙信公の時代、春日山の城下は、肥沃な頸城平野や豊かな日本海からの産物、直江津の港を生かした交易による富を背景に、京都に次ぐ大都市として大いににぎわったと伝えられています。

太古からの歴史、文化が息づき、多くの伝説に彩られた私たちのまち上越市。平成27年春には北陸新幹線も開業します。大勢の皆さまに本市を訪れていただき、このまちに流れる時間を肌で感じていた

なければ幸いです。

地域自治区制度の導入

今世紀に入り、平成の大合併が進む中、本市は、平成17年1月1日、近隣13町村と合併し新生「上越市」として新たなスタートを切りました。

本市では、住民が地域の課題に主体的に取り組み、解決していくことのできる新しい自治の仕組みとして、合併前上越市を除く13町村の区域ごとに「地域自治区」を設けるとともに、地域協議会を設置しました。平成21年10月1日から、合併前上越市にも15の地域自治区および地域協議会を設置し、以後、市の全域で28の地域自治区を運営しています。

地域自治区に置かれる地域協議会は、「自分が暮らしているまちを

良くしたい」という気持ちを持ったさまざまな立場の市民が、身近な地域で課題となっていることなどについて話し合い、より良い解決策を導き出していくための場です。制度上は「市長の附属機関」に位置付けられるものであり、市長から意見を求められた事項(諮問事項)に意見を述べるだけではなく、区域内の課題について自らの判断で自主的な審議を行い(自主的審議事項)、意見を述べる権限を有しています。委員の選任は「公募公選制」を採っています。

地域活動支援事業をスタート

このような中、私は、平成21年11月、「地域自治区に地域活動資金(市税の1%、約2億円)と権限を委譲し、地域の自主活動を支援」することを公約の一つに掲げ、市長に就任しました。

地域の自主的・自発的な活動を次代につなげていくためには、それぞれの担い手が独り立ちするま

での過程が重要です。地域活動に必要な資金を確保しながら、地域の発想で地域の思いを体現してもらうことが重要と考えたのです。そして、就任後初めての予算編成となった平成22年度当初予算において総額2億円を計上し、各区に配分した予算の中で、身近な地域における課題の解決を図り、またはそれぞれの地域の活力を向上するため、市民の発意により実施する事業について支援を行う「地域活動支援事業」をスタートさせました。

取り組みに当たっては、まず、各区の地域協議会において、地域の課題や地域の目指すべき姿を議論して、それぞれの思いを「採択方針」としてまとめてもらいました。

その28区の採択方針に基づき、市民から事業の提案を募集するとともに、応募のあった提案については地域協議会の審議により、採択などを決定しています。また、採択した事業の内容や実施後の成果について、広く市民に公表することによって、地域づくりに対する市民の関心を高めていくこととしています。

平成22年度には、284件の事業が採択され、その中には、「新しい公共」の芽出しとなるものが見られるなど、当初想定していた以上に、良い意味での相乗効果があったものと考えています。今、まさに本市では市民が生き生きとわがまちの未来を語り出しています。この事業を契機に、より多くの市民が、地域づくりを始めよう、進めていこうという前向きな気持ちを持って取り組んでいけるよう、私としても、引き続き工夫を重ねていきたいと考えております。なお、具体的な取り組み内容については、本市ホームページもご覧いただきたいと思えます。

結びに

昨冬、本市の一つの地区で、地



地域住民の「田んぼ」への思いを伝える「棚田の稲文字祭り」その環境整備に地域活動資金を活用



上越市長 村山秀幸

〔将来都市像〕海に山に大地に 学びと出会いが織りなす 共生・創造都市 上越

〔まちの特徴〕古くから交通の要衝として栄え、四季折々の豊かな自然、歴史と文化に彩られたまち

〔市町村合併〕平成17年1月1日、安塚町、浦川原村、大島村、牧村、柿崎町、大潟町、頸城村、吉川町、中郷村、板倉町、清里村、三和村、名立町を編入合併



〔特産品〕米、ワイン、日本酒、手打ちそば、笹だんご、翁飴、かまぼこ、幻魚、甘エビなど

〔観光〕高田公園、霊峰米山、春日山城跡、鶴の浜温泉、キュービッドパレイ、岩の原葡萄園

〔イベント〕レルヒ祭、高田城百万人観桜会、上越まつり、上越はすまつり、謙信公祭、越後・謙信SAKEまつり、新そばまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「3つの元気」で「ふるさと館山」をさらに元気に

はじめに

千葉県の最南端に位置する館山市は、西に波静かな館山湾を抱き、南は黒潮躍る太平洋に面し、「暖冬涼夏」の代表的地域として知られ、人情豊かな自然と風土にはぐくまれているところです。

南房総国立公園に指定された風光明媚な31.5kmに及ぶ海岸線からは、富士山や伊豆七島なども眺望できます。

また、「日本の道100選」「日本の夕陽百選」などの指定も受け、夏の海水浴場やマリンスポーツをはじめ、各種スポーツ合宿、花摘みやイチゴ狩りのシーズンなど、通年にわたり多くの観光客でにぎわっています。

戦国時代には、「南総里見八犬伝」のモデルとなった里見氏の城下町

として栄え、南房総地域の政治、経済、文化の中心都市として繁栄してきました。

現在では、東京湾アクアラインや館山自動車道の全線開通など、高速道路ネットワークの整備に伴い、都心からの時間距離も大幅に短縮されました。

館山湾の活用と海辺のまちづくり

平成22年4月25日、「多目的観光棧橋の供用開始」に加え、「新生につぼん丸の初寄港」「千葉海上保安部館山分室の開所」が重なり、まさに「海の玄関口 館山の新たな時代の幕開けとなる記念日」となりました。

道路棧橋形式としては日本一の延長といわれている「多目的観光棧橋」には、これまで「につぼん丸」や「ばしふいつくびいなす」といった

大型客船が寄港しています。

また、早春恒例となっている東京く館山く大島く伊東を結ぶ「海のフラワーライン」と銘打った「高速ジェット船」による季節運航も、年々利用者数を伸ばし、館山湾のにぎわいづくりの弾みとなっています。

さらに、10月18日には、貨客船「おがさわら丸」が平成22年に引き続き寄港し、「世界自然遺産」に登録された小笠原諸島へ館山から直行便で行くことができます。

現在、棧橋の基部では、ターミナル機能や観光情報発信機能などを併せ持つ「交流拠点」の駅「たてやま」の整備が進められ、地元物産品の販売や地場産品を食材として提供するレストランなどの商業施設も整備される予定です。

さらに、北条海岸沿いでは、整



館山港多目的観光棧橋と客船「につぼん丸」

あふれる観光地づくりを目指していきます。

ソフト面の取り組みとしては、学生や市民の皆さんに支えられ、本年度17回目を迎えた夏の一つの風物詩「全国大学フラメンコフェスティバルin館山」をはじめ、去る8月8日に開催された「館山湾花火大会」では、多彩なアトラクションが

館山湾に華を添え、過去最多となる16万人の方に館山を訪れていただきました。

また、記念すべき30回という節目を迎え、本年10月1日・2日に開催される「南総里見まつり」では、北条海岸の鏡ヶ浦通りを舞台に、開催史上最多となる市内33地区から出祭する山車や神輿などの競演や「宮城・房総B級グルメまつり」と銘打った東日本大震災の被災地復興を祈念した内容を盛り込んでいることもあり、大きな盛り上がりが見込まれます。

さらに、平成24年4月7日・8日には、館山市で初の国際大会となるロンドン五輪のトライアスロン競技の選手選考会を兼ねた「トライアスロンアジア選手権 館山大会」の開催が決定、アジア各国から選手・スタッフ・報道機関など、

「3つの元気」で「ふるさと館山」をさらに元気に

東日本大震災の影響などの厳しい経済情勢の中で、市民の皆さんが「住んで良かった」と実感できるよう、「元気な市民」「元気な経済」「元気な財政」という「3つの元気」で、「ふるさと館山」をさらに元気にするための施策に力を注いでいます。

プロフィール

- ◆ 面積 110・21km²
- ◆ 人口 4万9917人
- ◆ 世帯数 2万2496世帯

〔将来都市像〕輝く人・美しい自然 元気なまち館山

〔まちの特徴〕温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれ、優れた景観を有する都心から一番近い癒やし系リゾートのまち

〔特産品〕房州うちわ、唐棧織、花卉（ポピー・ストックなど）、イチゴ、新

鮮な野菜や魚介類、鮎、さんが、なめろう

〔観光〕城山公園、館山城、沖ノ島、北条海岸、南房バラダイス、崖の観音、洲崎灯台、赤山地下壕跡、イチゴ狩り、花摘み

〔イベント〕館山若潮マラソン大会、たてやま海まちフェスタ、館山湾花火大会、全国大学フラメンコフェスティバルin館山、やわたんまち、南総里見まつり



館山の秋の風物詩「南総里見まつり」



館山市長 金丸謙一



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

市民の生活を守り、将来の発展を見据えた市政を目指して

磐田市について

磐田市は、富士山のお膝元、静岡県の西部、天竜川の東側に広がる地域で、南は遠州灘に面しています。奈良時代には遠江国の国府が置かれ、江戸時代には東海道五十三次見付宿として栄えるなど、古くから遠州地方の中心として栄えてきた地域です。

現在は、静岡県下第2位、およそ2兆円の工業出荷額と第5位の



市内全小学校の5・6年生を対象にした、ジュビロ磐田ホームゲームの一斉観戦

農業生産額を誇り、輸送機器関連や電子部品関連を中心とした全国有数の「ものづくりのまち」であるとともに、高級食材として全国で使用される海老芋や温室メロン、遠州灘の荒波にもまれた、いきのよいシラスなど、都市部と山海部が均衡ある発展を遂げています。また、日本一の70種類のトンボの生息が確認されている「桶ヶ谷沼」に代表されるような豊かな自然環境にも恵まれ、サッカーJ1リーグ「ジュビロ磐田」のホームタウンとしても全国的に知られています。

組織の活性化・職員の意識改革

私が市長に就任をした平成21年は、平成20年のリーマンショックの影響を受け、税収は激減し、予算を組むこともままならないよう

な状況でした。しかし、同時に、肥大化している行政を見直すチャンス、職員に自覚を促すチャンス、市民に市政に関心を持っていただくチャンスだと思いました。まず、私が取り組んだことは職員の意識改革であります。「市民第一・現場第一・行動第一」「変えよう磐田！」を基本姿勢に「改革はまず市役所から」と考え、市役所を「市民に奉仕する職員集団」に変えるため、一人一人と膝を合わせてミーティングを行ったり、幹部職員の会議の活性化を図るなどをして、徹底して意識改革を行って来ました。また平成22年度には若手職員の育成を図るため、長期間にわたる政策形成能力向上研修を実施しましたが、完成度が高い提案がいくつも生まれ、改めて職員への頼もしさを感じました。私はこ

れを「草莽塾」と名付け、継続して取り組んでいこうと考えています。**住む人には「あたたかさ」を、来る人には「おもしろさ」を、産業・雇用には「力強さ」を** 私は、将来に向けた磐田市のありべき姿として、「住む人には『あたたかさ』を、来る人には『おもしろさ』を、産業・雇用には『力強さ』を」感じていただけるような「まちづくり」を目指しております。**●ひとづくりの推進** 「まちづくりはひとづくりから」という方針に基づき、平成17年4月1日の合併時から、市費負担教員「ふるさと先生」を任用し、全小中学校にて35人学級を実施して、一人一人の児童・生徒によりきめ細やかな教育を行い、学力の向上と豊かな心の育成を図っています。そして、将来の磐田市を担う子どもたちを第一に考え、平成22年度から広島平和記念式典に中学生を派遣しています。若い感性を持つ

た中学生たちが何かを学び取り、大きく成長してもらいたいと考え、継続事業として実施していきます。また、ふるさとへの愛情と誇りを持ち、ジュビロ磐田のホームタウンへの愛着心向上のため、小学校5・6年生を対象としたジュビロ磐田ホームゲームの一斉観戦を実施するほか、中学生の海外研修も検討しています。

●にぎわいづくりの推進

まちのにぎわいづくりでは、農工商連携イベントとして、磐田駅前通り(通称ジュビロード)にて、軽トラットの荷台をお店にして、運んできたものを直売する「みんなで軽トラ市 いわた☆駅前楽市」を開催しています。実行委員会・出店者・来場者・スタッフ・市役所「みんな」で盛り上げながら、約90台の



1万人を超える来場者でにぎわう軽トラ市

軽トラックが並び、1万人を超える来場者があり、まさに全国でもトップレベルの規模の軽トラ市になっています。今後も引き続き開催していきますので、ぜひお越しいただければと思います。**●ものづくりの推進** 市内の産業の活性化、新産業創出のきっかけづくりでは、協議会を立ち上げ、企業間の情報交換や連携を促進するとともに、公用車に改造したEV車を導入して実証実験を行い、結果を企業にフィードバックするなど、官民が協力して産業の活性化に努めています。また、豊富な農水産物の生産・加工・販売の一貫した経営を推進する6次産業化を図るなど、地域の特性を生かした産業の発展を進めていきます。具体的には、海老芋を加工した「海老芋コロッケ」や、取れたてのシラスをゆでた「釜揚げシラス」などの本市特産品の積極的なPRを行っていきます。

結びに

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)は、まさに未曾有の大災害でした。磐田市では、「心の懸け橋プロジェクト」

として、市内の企業と協力をして風評被害にあっている被災地の農作物を調達して市内で販売をしたり、本市の小中学生からの励ましの手紙や本市特産品を被災地に届けるなど、今後とも、少しでも被災された皆さまに笑顔が戻るような支援に取り組んでいきます。同時に、今回の災害は、さまざまな課題を行政に提示しました。災害対

策、原発対策、エネルギー対策。「市民が安全・安心に暮らせる」ことが、市役所にとっての至上命題であり、私に課せられた責務であります。市民の方に「磐田市に住んでよかった」と思ってもらい、「磐田市に住んでみたい」と訪れた方に思ってもらえる市を目指して、今後も一層汗をかいて市政運営に取り組んでいきます。

プロフィール

- ◆面積 164.08km²
- ◆人口 17万3518人
- ◆世帯数 6万3277世帯

〔将来都市像〕「光と風・水と緑」とが、まちが、いま輝き出す」自然あふれ、歴史・文化薫るゆとりと活力のまち

〔まちの特徴〕豊かな山海の恵み、歴史と伝統、魅力ある産業が息づく、都市と自然が調和したまち

〔市町村合併〕平成17年4月1日、磐田市、福田町、竜洋町、豊田町、豊岡村による新設合併



磐田市長 渡部 修



〔特産品〕オートバイ、温室メロン、海老芋、茶、白ねぎ、ころ柿、シラス、コーデユロイ

〔観光〕旧見付学校、遠江国分寺跡、桶ヶ谷沼、ヤマハスタジアム、竜洋海洋公園、獅子ヶ鼻公園、香りの博物館

〔イベント〕遠州大名行列・舞車、見付天神祭、いわた夏まつり花火大会、池田・熊野の長藤まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

人やまち、そして産業が生き生きと躍動する 「元気な『かのや』づくり」に向けて

まちな紹介

鹿屋市は、鹿児島県大隅半島のほぼ中央部に位置しています。西北部は、森林生物遺伝資源保存林にも指定されている広大な高隈山系が連なり、東側には笠野原台地や肝属平野が広がり、中央部には肝属川が流れ、西部には錦江湾に面した約19kmに及ぶ美しい海岸線が続いています。そして、南部



旧鹿屋航空基地特別攻撃隊戦没者追悼式の様子

には神武天皇のお父君とお母君の御陵である吾平山上陵あいらのやまのうらののみさぎを有する山林地帯となっており、大自然の恩恵に包まれた実り豊かな地域です。年平均気温は17.9度、年平均降水量は2743mmと比較的温暖な気候に恵まれ、基幹産業である農業を中心に、国内トップクラスを誇る牛・豚の生産量など、国内有数の食料基地としての役割を果たしています。

「基地のまち」として

市の中心地近くには、海上自衛隊鹿屋航空基地があります。この基地は、昭和11年4月に日本海軍鹿屋海軍航空隊として開隊し、後の第二次世界大戦では、特攻隊員として若き命が南海の海へ散華されました。戦後66年の歳月がたち、本年度

で54回目になる旧鹿屋航空基地特別攻撃隊戦没者追悼式を開催し、祖国に尊い命を捧げられた御霊に対し、深い敬意と感謝の誠を捧げております。また、海上自衛隊の敷地内に、鹿屋航空基地史料館があり、海軍航空の歴史史料館として、特攻隊員の写真・遺書・遺品などの資料展示のほか、「零式艦上戦闘機52型」の復元展示や、現在活躍されている海上自衛隊の活動状況の紹介などを展示しています。

現在も、市と基地が協力してつくり上げたイベントとして、「エアメモリアルinかのや」を毎年春に開催するなど、「基地のまち」として、これら史実を忘れることなく、後世に伝えなければならぬ使命と、歴史とともに歩みながら、良好な信頼関係の下、共存共栄を

図っています。

市民目線からの市政運営

平成22年2月に市長に就任して以来、民間出身者として、市民目線での市政運営を目指してさまざまな取り組みを行ってきました。具体的には、就任してすぐに、市民が行政に何を求めているのかを把握するため、市内全域14カ所で、「市長と語る車座会議」を開催し、市民の意見などをお聴きしてまいりました。

また、産業や市民生活分野などにおける新たな取り組みに対する市民の意見などを参考にするため「元気なかのや」づくり会議を開催し、今回は中心市街地の活性化をテーマに意見交換を行ったところです。さらには、市域全体の均衡ある発展のため、合併前の旧3町地区に「鹿屋市地域再生会議」を設置し、地域の方々に、地域の課題解決や活性化に向けて主体的に取り組んでいただいているところです。

地域の特性を生かして

本市には、全国で唯一の体育の単科大学である「国立大学法人鹿屋体育大学」があります。昭和56年に設置され、本年度で開学30周年を迎えました。広大なキャンパスにある充実した施設は国内最高水準を誇っています。

これまで、アテネオリンピック競泳女子800m自由形金メダリストの柴田亜衣さんをはじめ、北京オリンピックでは競泳、バレーボールで4名の選手が出場するなどトップアスリートを輩出しています。

この鹿屋体育大学を、地域の知的・物的財産ととらえ有効活用しようと、平成22年度から3年間のパイロット事業として、「スポーツ合宿まちづくり推進事業」に取り組んでいます。

この事業は、産学官の連携事業として、「産」の鹿屋市観光協会は、宿泊施設の提供などを調整し、「学」の鹿屋体育大学は施設設備を利用した測定や科学的サポートプログラムの作成、選手の食事メニューを作成、「官」の本市は国内の第一線で活躍するさまざまな分野のプロ選手等の合宿・自主トレーニング

の誘致や、スポーツ教室などの実施による地域活性化や交流人口の促進を図るものです。

初年度の平成22年は、福岡ソフトバンクホークスの和田投手や、隣接する肝付町出身の北海道日本ハムファイターズの鶴岡選手、本市出身の阪神タイガース前田選手などプロ野球5球団12名の自主トレーニングを誘致することができました。ほかにも陸上競技やトライアスロンの選手などの誘致も行っており、将来的には地域の受け皿体制を整えながら、スポーツ交流による地域活性化へ向けた事業を展開してまいりたいと考えています。

結び

本市の公共交通網は、昭和62年に国鉄大隅線が全線廃止となりバス転換され、現在本市の公共交通機関はバスのみとなっております。今年3月に九州新幹線が全線開業したことに伴い、九州圏外からの観光客など、交流人口の増加が大いに期待されるところです。

このようなことから、市では鹿児島中央駅・鹿屋市間の直行バスを運行しており、予想を上回る利用をいただき好評を得ています。

これからも新幹線効果を最大限に生かすための取り組みを展開してまいりたいと思います。

最後に、本市には、手つかずの自然や、4000種5万株のバラを有する日本一を誇れるばら園、黒豚・黒牛・カンパチなど豊かな自然にはぐくまれたおいしい食材がたくさんありますので、鹿児島県へおこしの際には、ぜひ鹿屋市まで足をお運びください。

プロフィール

- ◆ 面積 448.33km²
- ◆ 人口 10万5569人
- ◆ 世帯数 4万8809世帯

- 〔将来都市像〕ひと・まち・産業が躍動する「健康・交流都市 かのや」
- 〔まちの特徴〕鹿児島県大隅半島のほぼ中央に位置した地域の中心都市。大自然に恵まれた心豊かなまち
- 〔市町村合併〕平成18年1月1日、鹿屋市、輝北町、串良町、吾平町による新設合併



鹿屋市長 嶋田芳博



- 〔特産品〕牛、豚、カンパチ、茶、さつまいも、落花生、焼酎
- 〔観光〕かのやばら園、鹿屋航空基地史料館、輝北うわば公園、串良平和公園、吾平山上陵
- 〔イベント〕かのやばら祭り、エアメモリアルinかのや、南日本クロスカントリー大会inきほく、串良二十三日市、美里あいら夏祭り



スポーツ合宿まちづくり推進事業での「野球教室」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。